

2018年
8月10日

No.237

さざなみ

〒520-2141
大津市大江6丁目23-24
さざなみネット
 (金融労連・全国金融産業労働組合滋賀分会)
 TEL・FAX 077-545-5154

近畿地協常任幹事会

大会に向け 諸課題を総括し より豊かな議案を

7月14日、近畿地協第5回常任幹事会が大阪国労会館で開かれ、近畿各地から9人が、さざなみネットから山崎書記長が参加しました。

当初7月8日の開催が、豪雨のため交通機関の運転見合わせがあり延期となりました。

岡野議長の挨拶に続いて、金融労連中央委員会や金融ユニオン・近畿地協事務局報告の後、単組・支部・分会から取組日程や要求回答状況・職場の状況などを報告しました。一部ですが掲載します。

- ・新入職員の多くが加入。さらに加入を進めていきたい。
- ・バスハイクや新入職員歓迎ビアパーティーなどを企画し組合員の親睦を深めた。
- ・春闘要求後、執行委員会で十分論議し、三役交渉や諸折衝、12回の団体交渉をし、中央委員会や中央闘争委員会などで論議を深めた。
- ・「時間管理の運用・ガイドライン」が通達され、全体的な退行時間がこれまで以上に早まっている。
- ・有価証券評価損のため、管理職中心に臨給がカットされた。団体交渉や事務折衝など交渉を継続している。
- ・人事制度改定の影響で、夏期臨給が減った仲間が多い。人事評価制度への不満・不安が大きくなっている。

なっている。

- ・働かせ方改善の先どり、就業規則を改定して特定総合職

(特定分野でのプレーヤーとしての経験をベースに、幅広くキャリアアップしていくコース)を限定なく都合よく働かせている。

近畿地協定期大会に向け日程や議案、分担などについて相談しました。

大会 日時 10月27日(土)
会場 大阪国労会館

大会に向け、諸課題の取り組みや運動を総括し、より豊かな議案とするため学習し、議案の論議を進めることを確認しました。

2018核兵器なくそう・女性のつどいinヒロシマ

原水爆禁止2018年世界大会の関連行事「2018核兵器なくそう・女性のつどいinヒロシマ」が8月5日開かれ、1050人が、さざなみネットから1人が参加しました。

核兵器禁止から廃絶へ、被爆者の証言を聞きながら海外代表を交えて経験交流しました。

核兵器廃絶に向けてヒバクシャ国際署名を広げることがカギです。がんばりたい。



おじぞうさん 岩波 美智子さん 画



海外代表とともに合唱

学習講演会

憲法とは何か、何のために、誰のためにあるのか

7月7日長浜革新懇総会に続いて、玉木昌美弁護士を講師に「安倍改憲とその行方」を演題に学習講演会が行われ、さざなみネットから2人が参加しました。

玉木氏は、18才選挙権制度になり近々選挙権を持つ高校生のための出張授業を行う中での話を中心に講演されました。

立憲主義の重要性として、日本国憲法の主体は日本国民で、憲法は「国民の政府に対する命令」であり、憲法と法律とは違う。国のあり方の基本（最高法規）が憲法である。「日本政府もアメリカも憲法を変えようとしたが、日本国民の不断の努力により変えることができなかった。それにより、人殺しをしない、戦争をしない奇跡の国となっている。」と強調されました。

日本国憲法の核心は、個人の尊厳原理（憲法13条）であり、「私の生き方は私が決める。私が選び、私が決めた私を生きたい」ということである。自由と民主は立憲主義そのものであり、その上に、太平洋戦争の反省に立って、徹底した平和主義を採用したところが先駆的だと

説明されました。

民主主義の原点は、「ものごとを主体的につくっていく」という思想

で、「他人まかせ」では民主主義ではない。人間が自らの主体的努力によって幸福、自由、権利を勝ち取る、不断の努力が大事であると述べられました。

最後に「一度きりの人生、死ぬとき、俺の人生は面白かったな、楽しかったなと言えるように、ワクワクできるものを持ってほしい」ことを伝え授業を終えるとのことでした。

本来の憲法の意義を教えてくださいました。こんな授業が、もっと多くの学校で主体的に行われるようになる必要性を強く感じました。



7・29安倍9条改憲NO！滋賀県民集会

進む政治の私物化、瓦解する官僚たち

7月29日、台風12号の影響で開催が危ぶまれる中「安倍9条改憲NO！滋賀県民集会」が解放県民センターで開かれ、約250人が、さざなみネットから2人が参加、立ち見が出るほどでした。

安倍9条改憲に反対する「3000万人署名」が県内で20万筆を超えことが報告され、30万筆目標を達成しようと呼びかけました。

第1部は、東京新聞社会部記者の望月衣塑子さんが「進む政治の私物化、瓦解する官僚たち」と題して講演。政治家や官僚とのギリギリのやり取りが臨場感あふれる口調で語られ、大幅に予定を超えた熱演でした。

第2部は、望月さんと滋賀県立大学教員の河かおるさんとのトークセッション。河さんは、韓国キャンドル市民革命の経験と成果について報告されました。

集会後参加者らは、安倍内閣の総辞職を求めてデモ行進しました。



熱演する望月記者

ひととき

修理完成記念特別展

糸のみほとけ「国宝 綴織富麻曼茶羅と繡仏」

1250年前に織られた4m四方の綴織曼茶羅が修理を終え公開されると聞き、奈良国立博物館へ行ってきた。

富麻寺は、奈良県葛城市にある7世紀創建の寺院で、西方極楽浄土の様子を表した「富麻曼茶羅」の信仰と、曼茶羅にまつわる中将姫伝説で知られる古寺である。

富麻曼茶羅は、今回修理されたというもの、じっくり見ないと仏の姿がよく分からなかった。ただ今まで多くの転写本がつくれ、今回「刺繡富麻曼茶羅」（真正極楽寺）が展示されており、大きさ、糸の美しさに圧倒された。

他、天寿国繡帳、刺繡釈迦如来説法図の国宝など多くの糸のみほとけを鑑賞した。

今年は、親族との悲しい別れが多く、気持ちが寂しかったが、こんな世界に行っているのかと思うと何か少し気分が楽になった。

